

きこえとことば No.5



令和8年3月2日発行

佐賀県立ろう学校

支援部

教科指導・教材の紹介

ろう学校では、教科指導等において、視覚的に分かりやすい提示や、体験的な学びを大切にしています。体験的な学びを通して、言葉の理解を深め、言葉を豊かに育むことを目指しています。各教科等で心がけていることをいくつか紹介します。

幼稚部総合

(朝の会、帰りの会、クラス活動、合同活動など)



国語

- ・ 漢字を読むことが苦手な児童生徒が読みやすいよう、教科書中の漢字にルビを振る。
- ・ 単語の意味や助詞の使い方について、丁寧に確認する。
- ・ 音読の際は、句読点に注意し、意味のまとまりを意識して読むよう促す。
- ・ 小学校低学年では全文がひらがなで表記されていることが多いため、言葉のまとまりを意識させる。(不自然な位置で文を区切って読んでしまうことが多いため)



理科

- ・ 実験・観察では、「どこに注目して記録するのか」を事前に明確に伝え、見た事実をそのまま言葉や文章でまとめるように指導する。
- ・ 論理的に予想や考察を書くことができるよう、「私は〇〇だと思います。なぜなら□□□だからです。」などの定型文を提示する。
- ・ 考察活動では、1回目は教師と生徒が一緒に考え、2回目はそれを踏まえて生徒自身が考えるよう段階的に指導する。



社会

- ・ 新出用語や抽象的な用語は概念理解が難しくなりやすいため、文脈把握を支援する工夫を行う。例えば、用語を「法律」「地名」などカテゴリー別に色分けして提示したり、人物名については立場や役割が分かるイラスト付きカードを用いて整理したりする。(色分け例⇒ **法律** **条約** **役割** **地名** **制度・政策**)



英語

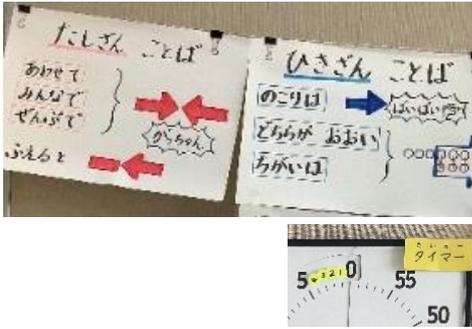
- ・ 新出単語については、必ず読み方をカタカナで提示する。
- ・ 生徒の実態に応じて、*Can I ~ ?* は「キャナイ」と読むなど、単語同士がつながって発音されることを示す。
- ・ CDなどの機械音が聞こえにくい生徒へのリスニングの代替措置として、内容をすべて電子黒板に文字で表示し、文が右から左に流れる形式の英文を読んで問題を解くようにする。(英語検定における聴覚障害者向けのリスニング配慮も、同様の形式がとられている。)



教室等の環境整備について

ろう学校及び寄宿舎においては、手話や文字、絵などを活用し、幼児児童生徒がいつでも言葉を確認したり、理解を深めたりできるような、視覚的に分かりやすい環境整備を行っています。

学習した言葉や物の名前、状態や気持ちを表す言葉などをいつでも確認できるように掲示する。
名詞は黄色、動詞は緑、形容詞は水色で色分けしている。



文字に併せて指文字を表記する。

その場所ですることを絵と文で示す。

指文字表やよく使う言葉を掲示する。(寄宿舎)



行事や予定などの確認にカレンダーを使用する。「昨日・今日・明日」や「先週・今週・来週」の確認を行う。

防災関連の言葉、避難時の約束などを手話や指文字、絵で掲示する。(寄宿舎)



子育てや幼児児童生徒の指導・支援に困ったときは、お気軽にご相談ください。

～佐賀県立ろう学校～
TEL:0952-30-5368
FAX:0952-34-1043
Mail:rougakkou@education.saga.jp



ホームページ



メール



乳幼児教育相談の
Instagram